

第91期部門長挨拶

部門長(第91期)池森 寛



今期部門長を務めさせて頂くことになりました西日本工業大学の池森寛です。歴代19人目の部門長として、副部門長の高田一先生(横浜国立大学)と幹事の佐々木直栄先生(日本大学)と共に本部門の運営を行って参ります。重責をどれだけ果たせるか分かりませんが、精一杯努力いたしますので、部門の皆様のご指導とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本部門は、人と技術と社会を核におき、機械工学やその関連技術と私たちの社会との架け橋となる活動を行っています。その架け橋は時間と空間に架けられたもので、技術の過去・現在・未来を思考する機械工学の各専門領域で活躍されている方々に登録(1~3位:1761名)を頂いています。規模は小さいですが、関係する分野を考えると限りなく大きく、そして基盤となる部門と言うこともできます。

私事で恐縮ですが、若いころから技術の歴史に興味を持ち、日本の水車の伝統技術に魅せられて以来、種々の機械の歴史を研究してきました。これまで機械遺産認定事業にも加えて頂き、これらの知識が多少はお役に立ったと思っています。歴史の研究について、故・木村尚三郎先生(東大名誉教授)は「振り返れば未来」と言う言葉を残されています。技術の歴史を調べ、現在を見詰め、未来を考えるという意味と私は理解しています。技術と社会部門の主要なキーワードとして、技術史、技術・工学教育、技術者倫理が挙げられますが、まさに歴史から、現在の社会の問題、そして未来を志向する教育までを対象とした研究啓蒙活動は、上記の名言にも当てはまり、本部門講演会の「過去から未来を訪ねる」という標語は、大切にしたいと思っています。

さて、今期の活動としては、設計工学会との共催による徳山高専での部門講演会・見学会、岡山大学での年次大会での技術教育と技術史のセッション並びに部門横断的ワークショップを計画。また通算

160回を超える実績をもつイブニングセミナーでは、一般の方々にも分かりやすい内容も組み入れ、本年は地方開催も試みる予定です。毎年開催の技術者倫理セミナーも11回を迎えます。若い方々への教育啓蒙活動として新設します「持続可能なエネルギー利用に関する研究会」では、エネルギー有効利用のアイデアコンテストを本格的に実施し、恒例のスターリングエンジンを活用した工学教育活動とともに、創造性の涵養を目指します。また、外部の関連学会や公共団体との協賛・後援活動も積極的に行いたいと思っています。さらにまた、昨年で55件となった機械遺産認定活動は、市民の皆さんへの学会のPR事業をも担うものとして欠かせない存在となり、部門の評価にも大きく係わり、益々重要な使命を果たすこととなります。

ご承知のように、昨年以来本学会の財政事情が厳しくなっており、種々の改善が検討・実施されつつあります。本部門ではこれまで適正な財政活動を行ってきていますが、部門においても節約が求められております。本年は「出を制し、入りを図る」を元に、部門運営経費のさらなる見直しを実施いたします。一方、各行事への参加者増を図るための広報や勧誘。さらに、学会への入会の声掛け（本部門の趣旨から機械遺産、技術と社会問題、さらに技術教育に関心のある機械専門以外の方々をも募る）等も、皆様にご協力のもとに実施したいと思っております。

（西日本工業大学 池森 寛）

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.29

(C)著作権:2013 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門